

令和5年度 学校評価計画

島根県立出雲農林高等学校

※ アンケート評価 A: そう思う B: ややそう思う C: あまり思わない D: 思わない E: わからない

評価 A: 十分満足である B: ほぼ満足である C: 改善の必要がある

	今年度の重点目標	具体的取組事項	評価指標 (到達したい状況・状態)	評価基準		結果 (Eを除くA Bの割合)	校内 評価	反省及び次年度への課題等	改善案	学校運営 協議会委員 評価
				A	B					
総務部	広報活動の強化	ホームページの速やかな更新と、きめ細かな情報発信に努め、充実した広報活動を展開する。	教員(1)・保護者(13)アンケートにおいて「A」「B」と回答した割合	A 90%以上	B 80%以上	保護者 88.4 教職員 90.3	B	●各分掌、各学科での行事ごとの記事作成はできていたと考えている。しかし、分掌や部活動によって掲載回数に差があったり、掲載のタイミングが遅れたりするなど、記事更新については課題がある。	○引き続き各分掌・各分掌において、各行事ごとの記事作成(HP更新)が実施できるようにする。 また、HP講習会の時期や方法を検討し、各分掌や部活動単位の記事作成(HP更新)がよりスムーズに行えるようにしていきたい。	B
	PTA活動の活性化	①PTAの評議員会や総会及び農業祭でのPTA諸活動を通じて、教員と保護者との連携や相互理解を深める。併せて創立90周年記念事業をそつなく運営する。 ②PTA会報の発行(4・7・2月下旬)と、ホームページを随時更新すること等により、保護者への情報発信に努める。	教員(2)・保護者(18)アンケートにおいて「A」「B」と回答した割合	A 90%以上	B 80%以上	保護者 77.5% 教職員 96.6%	B	●コロナが5類に引き下げられた事により、農業祭の一般公開や、食の広場も4年ぶりに開催するなど、PTA活動も活発になった。十分とは言えないまでも、その他のPTA諸行事も滞りなく実施できた。 ●例年通り年3回のPTA会報(第3回は2月下旬発行予定)は発行できた。ただ昨年の改善案に上がっていた、PDF化してHPに掲載することができておらず、年が変わってからのアップとなりタイムリーでなかった。	○カラー版のPTA会報は好評であるので、次年度も年3回の発行を行い、生徒の活躍の様子を中心に情報発信を続けて行っていきたい。 PTA会報は、HPへの掲載がタイムリーに行えるよう、作成担当者が掲載するところまで一括して担当するよう分掌内の業務分担を見直したい。	B
教務部	自己管理能力の育成	保護者、担任、生徒部との連携や、生徒への啓発をとおして欠席と遅刻のさらなる減少を目指す。	保護者(8)・生徒(17)アンケートにおいて「A」「B」と回答した割合	A 90%以上	B 80%以上	生徒 93.1% 保護者 91.6%	A	●遅刻に対する生徒の意識は高い。しかし、学年が上がると遅刻数が増加する傾向がある。	○生徒指導部、進路指導部、各科などととも学校全体として遅刻しないよう呼びかけると同時に、遅刻の多い特定の生徒に対しては健康相談部の協力も得ながら学校への気持ちを高めさせる事が必要と思われる。	A
	キャリアプランニングの推進	漢字検定や文章読解・作成能力検定、英語検定、農業技術検定の全生徒受験に加え、各専門資格への挑戦をとおして生徒のキャリアアップに努める。	生徒(11)アンケートにおいて1, 2年次は今年度取得した資格数が1つ以上の生徒の割合 3年次は3年間で3つ以上の生徒の割合	A 90%以上	B 80%以上	1年 43.0% 2年 20.6% 3年 61.3% (1/26現在)	C	●取得率が低いのは、全員受験の検定・資格が減ったことが大きな要因と考えられる(1年生の英検: 全員→希望者のみ、2年生の農業技術検定: 全員→植物と動物は全員、環境と食品は希望者のみ)。 1年生の漢字検定は動物が学級閉鎖のため後日受験となり、まだ結果が出ていない(動物を除くと54.6%) 2年生の文章検は全員受験だが、まだ結果が出ていないため特に低くなっている(昨年の合格率は94.4%)。	○3年間で3つ以上の検定・資格取得をめざすという目標は維持したい。しかし、全員受験の機会が減少したことを考えると、評価基準の%を多少低くしないと現状に合わなくなっている。 参考: 現在の3年生で2つ以上取得者は83.9%である。	C
生徒指導部	校内外で積極的な挨拶の実践	生徒会、風紀委員、教員と毎朝の挨拶運動を実施。全校集会、学年会などで呼びかける。	教員(3)・生徒(14)アンケートにおいて「A」「B」と回答した割合	A 90%以上	B 80%以上	生徒 97.8% 教職員 56.2%	B	●挨拶運動の実施は例年通りであったが、教職員の評価が低いのは、普段挨拶をする生徒が少ないからではないかと分析する。生徒の評価は甘く非常に高いが、部活動加入率の低さも挨拶ができない生徒が増えている要因となっているのではないだろうか。	○挨拶運動の継続実施に加え、学校全体で互いに気持ちの良い挨拶ができる雰囲気づくりが必要。併せて、部活動加入率の改善を図り様々な活動へ積極的に参加する生徒を増やすことも大切ではないかと考える。	B
	自転車の交通マナーの強化	全校集会、学年会、自転車小屋などでマナーや命を守ることを呼びかけ、学期に1回の街頭指導において連携しながら注意・指導をしていく。	教員(4)・生徒(16)アンケートにおいて「A」「B」と回答した割合	A 80%以上	B 70%以上	生徒 97.5% 教職員 56.3%	B	●相変わらず生徒評価は非常に甘く高いのだが、一時不停止や並進など、自転車通学生の交通マナーは決して良いとは言えず、実際接触事故も複数発生している。引き続き、交通マナーの向上に努めたい。	○街頭指導の強化が必要。	B
進路指導部	生徒の進路実現を達成するための体系的な指導体制の構築	面接指導・小論文指導(3年)、進路ガイダンス・進路希望調査・キャリア・パスポートを効果的に行う。	教員(5)・生徒(29)アンケートにおいて「A」「B」と回答した割合	A 80%以上	B 70%以上	生徒 93.5% 教職員 100.0%	A	●各プログラム実施が計画通りなされた。HPへの掲載ができないことが多かったのも、さらにプログラムを精選し、丁寧に行っていくのがよいと考える。	○クロムブックの活用法を模索する。	A
	本校の特色を生かした進路決定	インターンシップ、プロジェクト発表、農場当番、意見発表、鑑定競技などの農業高校ならではの取り組みが、面接ノート(3年)、キャリア・パスポート・に適切に記録されるよう促す。	保護者(11)・生徒(25)アンケートにおいて「A」「B」と回答した割合	A 80%以上	B 70%以上	生徒 94.3% 保護者 91.6%	A	●多岐にわたる生徒の活動を本人が体系的に把握することにおいて、保護者と生徒の対話の機会を増やすなどし、生徒の自覚につなげたい。	○各学科、学年との連携を更に密にとる。	A
健康相談部	保健関連行事の適切な運営	健康診断や健康教育、安全点検や環境整備作業など、生徒の健康管理や良好な教育環境の維持に資する各種行事を適切に行う。	教員(6、7)・保護者(15)アンケートにおいて「A」「B」と回答した割合	A 80%以上	B 70%以上	保護者 89.9% 教職員 96.9%/100.0%	A	●校内および関係機関の協力により、必要な保険関係の行事を行うことができた。感染症対策については個人の判断に委ねられる中、状況に応じた注意喚起の内容や方法を検討する必要がある。	○健康管理が習慣化されるよう、引き続き周知徹底を図っていく。	A
	教育相談活動の充実	関係教職員と連携を図りながらSCの活用や教育相談委員会・ケース会議等を適宜開催し、生徒の情報共有や支援に努める。	教員(8)アンケートにおいて「A」「B」と回答した割合	A 80%以上	B 70%以上	教職員 100.0%	A	●問題を抱える生徒に対して早期の把握、情報の共有、支援協議に繋げることができるよう努めたが、対応の難しいケースも多々あった。	○関係各所の協力を得ながら、早期把握と共有化を図り、連携した支援を継続していく。	A

図書部	読書意欲を高める環境づくりに努める	①生徒・教職員による選書を行い、魅力的な蔵書を構築する。 ②生徒図書委員会の主体的な活動を支えるとともに、イベント開催や日常的な展示等により読書活動を推進する。	一冊以上借りた生徒の割合	A	B					●一昨年度43%で、目標を高く設定した昨年度は58%であった。図書館のPR活動を昨年と同様の活動を行ったところ、一昨年を上回る結果となった。一人一台端末の影響が若干の貸し出し低下に現れているのかもしれない。今年度は、低年齢向けの電子書籍を取りやめ、電子図書館の蔵書数を増やし、電子図書館のさらなる充実を図った。また、図書委員による選書活動や農業祭来場者による生徒に勧めたい本のアンケートを行い、それに基づいた書籍を購入するなど、多様な資料を提供できた。農業祭における図書委員会による展示、各学期に行った委員会活動等昨年度以上の生徒の主体的活動への支援ができた。また、図書館がテスト勉強の場として多数利用されるなど来館者が減少したとは考えていない。	○引き続き4月当初、入学生全クラスに対してのオリエンテーションを行い、図書館利用の導入としたい。また、入ってみたいくなるような図書館入り口の掲示を継続・工夫していく。	C
	教育活動への支援の充実を図る	①各教科・学年会と連携して、図書館を活用した授業を支援する。 ②生徒が興味を広げ探求を深められるよう、多様な資料を提供するとともに、調べ学習のスキルアップ支援など、情報活用能力の育成に資する。	教員(9)生徒(33)アンケートにおいて「A」「B」と回答した割合	A	B	生徒 95.5% 教職員 96.8%			●今年度はプロジェクターやホワイトボードを新規に導入し、図書館を利用した授業のための環境整備を進めた。また、各教科で図書館を利用した授業を行っていた。	○各学年会・教科と連携しながら、図書館での調べ学習に加え、一人一台端末を使った授業を支援していく。	A	
寮務部	意欲的な学習態度の育成	通常時60分、試験期間90分の学習時間の確保と、個に適した学習環境(食堂、舎室)を提供する。	教員(10)・保護者(16)・生徒(23)アンケートにおいて「A」「B」と回答した割合	A	B	生徒 70.5% 保護者 72.8% 教職員 30.7%			●資格・検定に取り組む生徒が少なく、学習時間での学習目標が持てていない寮生が多かった。	○点呼を利用して、繰り返し学習へ取り組むように呼びかける。資格・検定への参加をよびかける。	C	
	快適な寮生活を目指して、寮内の環境美化の推進	①週番業務により責任感を持った寮生活を送るよう指導する。 ②自治意識を持ち、互いに注意し合える雰囲気をつくる。	教員(11)・保護者(17)・生徒(24)アンケートにおいて「A」「B」と回答した割合	A	B	生徒 70.1% 保護者 75.1% 教職員 55.3%			●共有スペースへの清掃の取り組みはほぼ満足できている。一方、個人スペースでは数人、整理・整頓ができていない者がいる。	○特に整理・整頓ができていない生徒に、個別に保護者にも協力してもらいながら指導する。	C	
農場部	研究活動の推進	①実験・実習を積極的に展開する。 ②生徒主体の探究的学習を推進する。	教員(12、13)・保護者(1)・生徒(3、26)アンケートにおいて「A」「B」と回答した割合	A	B	生徒 92.1%/96.9% 保護者 99.5% 教職員 96.3%/96.0%			●出展発表会を今年は市民会館で開催したが、中学生や地域の方々の来場者がなく、さみしいものであった。	○開催時期や開催の方法などを検討し新しいものに変えていく必要がある。	A	
	専門科目関連への進路実現	①専門関連への就職指導をより充実させる。 ②自営学科(農林大学校等)への進学指導を強化する。	教員(14)・保護者(11)・生徒(9)アンケートにおいて「A」「B」と回答した割合	A	B	生徒 83.4% 保護者 91.6% 教職員 96.2%			●情報の伝達の徹底や参加の方法など工夫するなどの農業や農業関連産業の魅力を向上させるような取り組みを検討する。	○地域の農業や地域産業をする機会を増やすために関係機関との連携を強化する。	A	
植物科学科	社会に通じる人間力の育成	①時間厳守・あいさつを徹底させる。 ②場面にふさわしい態度・行動がとれるよう指導する。	教員(15、16)・保護者(9、10)・生徒(14、15)アンケートにおいて「A」「B」と回答した割合	A	B	生徒 97.8%/96.2% 保護者 87.0%/89.5% 教職員 83.2%/100.0%			●遅刻、挨拶、態度についてほとんどの生徒が意識して生活しているが、引き続き座学や実習を含めた学校生活全般において継続的な指導を行う。	○社会に通用する生徒を念頭に置き、引き続きその都度声掛けなど取り組むことが必要である。	A	
	自ら学ぶ姿勢の育成	①「農業と環境」「課題研究」等、授業の充実を図る。 ②資格取得に向けての意識付け指導を行う。	教員(17、18)・保護者(2、22)・生徒(3、6、11)アンケートにおいて「A」「B」と回答した割合	A	B	生徒 92.1%/96.3%/52.6% 保護者 94.0%/96.6% 教職員 100.0%/87.6%			●生徒主体とした農環、課研の取り組みについて良好であったと考える。また、資格取得に向けて指導体制の構築と指導方法の改善及び放課後を有効的に活用していきたい。	○引き続きChromeBookを積極的に活用し家庭学習の充実を図りたい。	B	
環境科学科	社会に通じる人間力の育成	①時間厳守を徹底させる。 ②気持ちの良いあいさつや言葉づかい、服装の指導を行う。	教員(19、20)・保護者(9、10)・生徒(14、15)アンケートにおいて「A」「B」と回答した割合	A	B	生徒 97.8%/96.2% 保護者 87.0%/89.5% 教職員 91.7%/100.0%			●将来の職業や進路を意識しながら、社会人としてふさわしい態度や行動ができるように指導していきたい。	○次年度も継続して取り組む	A	
	自ら学ぶ姿勢の育成	①課題研究授業を充実させる。 ②資格取得に向けての指導を強化する。	教員(21、22)・保護者(2、22)・生徒(3、6、11)アンケートにおいて「A」「B」と回答した割合	A	B	生徒 92.1%/96.3%/52.6% 保護者 94.0%/96.6% 教職員 100.0%/100.0%			●資格取得の実績が昨年度を下回ったので、再度指導体制や方法を見直して改善していきたい。	○次年度も継続して取り組む	B	
食品科学科	社会に通じる人間力の育成	①時間厳守・あいさつを徹底させる。 ②場面にふさわしい態度・行動がとれるよう指導する。	教員(23、24)・保護者(9、10)・生徒(14、15)アンケートにおいて「A」「B」と回答した割合	A	B	生徒 97.8%/96.2% 保護者 87.0%/89.5% 教職員 92.4%/92.9%			●評価の平均は92.6%であった。教員・生徒の評価は概ね良好であるが、保護者からの肯定的な評価はわずかに90%に満たなかった。「挨拶と時間厳守」は学校生活だけでなく、信頼を築く上で常に大切であることを、生徒に意識してもらえることが課題である。	○すべての教育活動を通して、自ら先に挨拶をしたり時間を守るよう教員側から積極的に働きかけ、気づいた時に見逃さず指導するように引き続き心がけたい。	A	
	自ら学ぶ姿勢の育成	「農業と環境」「課題研究」を中心に問題解決型学習の充実を図り、専門教科への主体性と探究心を育てる。	教員(25)・保護者(2)・生徒(3、6)アンケートにおいて「A」「B」と回答した割合	A	B	生徒 92.1%/96.3% 保護者 94.0% 教職員 100.0%			●評価の平均は96.1%で、三者ともに良好な評価結果であった。自ら考え解決していく学習スタイルが構築されつつある。	○ICT・視聴覚教材・ワークシート等を活用し、生徒たちが日々の学習の中で新鮮な興味・関心を持ち、主体的に学習に取り組めるよう継続して指導していきたい。	A	

動物科学科	社会に通じる人間力の育成	①時間厳守・あいさつを徹底させる。 ②場面にふさわしい態度・行動がとれるよう指導する。	教員(26、27)・保護者(9、10)・生徒(14、15) アンケートにおいて「A」「B」と回答した割合	A 80%以上	B 70%以上	生徒 97.8%/96.2% 保護者 87.0%/89.5% 教職員 100.0%/83.3%	A	●2つの取り組みに対する評価は概ね良好であった。しかし、場面にふさわしい態度・行動(服装等も含め)に対して科全体を見渡すとまだまだであると感じる。そのため、継続的に指導、声かけを科の教員が中心となって行っていく。	○引き続き、朝終礼や授業、農場当番等の際に、場面にふさわしい態度・行動(服装等も含め)であるのか声かけを実施し、社会で通用する生徒を育成できるように継続的に指導していく。	A
	自ら学ぶ姿勢の育成	①「農業と環境」「課題研究」等、授業を充実させる。 ②家庭学習を利用し、専門知識の定着を図る。	教員(28)・保護者(2)・生徒(3、5、6) アンケートにおいて「A」「B」と回答した割合	A 80%以上	B 70%以上	生徒 92.1%/93.0%/96.3% 保護者 94.0% 教職員 93.4%	A	●2つの取り組みに対する評価はともに良好であった。その中でも家庭学習をより充実させる取り組みが必要である。	○専門教科でも家庭学習を充実させていくために、科の教員に定期的に声かけを実施し課題作成を促していく。	A
一年部	基本的生活習慣・学習習慣の確立	①クラス、授業、学年集会等で物事に見通しをもって取り組むことについての指導を行う。 ②マナトレを中心とした学習へ意欲的に取り組むよう指導する。	教員(29、30)・保護者(9、10、20)・生徒(7、12、14、18) アンケートにおいて「A」「B」と回答した割合	A 90%以上	B 80%以上	生徒32.6%/87.2% /97.8%/98.1% 保護者 87.0%/89.5%/69.5% 教職員 86.5%/83.0%	B	●生徒、保護者、教員ともに「ほぼ満足である」であった。生徒、保護者ともに家庭学習に関わる数値が低かったため、家庭学習の充実を図ることが必要である。	○試験期間の限られた時期だけではなく、資格取得に関わる取り組み等で家庭学習がより活発になるよう声掛けを行う。	B
	地域へ視野を広げようとする生徒の育成	専門科目に意欲的に取り組むよう指導する。	教員(31、32)アンケートにおいて「A」「B」と回答した割合	A 90%以上	B 80%以上	教職員 85.8%/88.8%	B	●どちらも「ほぼ満足である」であった。評価数値の向上のため、専門教科をはじめ日頃の学習を課外学習に活かせるよう、教員間の連携等をお願いしたい。	○学年部と学科、担当教員間での連携強化 ○県内企業視察研修の内容検討(次年度以降)	B
二年部	社会に通じる人間力とコミュニケーション力を持った生徒を育成する	相手の立場に立って考え、場に応じた挨拶や言葉遣い、活動や態度、発言や発表ができるよう指導する。	教員(33)・保護者(9)・生徒(14) アンケートにおいて「A」「B」と回答した割合	A 90%以上	B 80%以上	生徒 97.8% 保護者 87.0% 教職員 90.8%	A	●挨拶や言葉遣いについては、かなりできるようになってきており、生徒のアンケート結果にも表れている。「相手の立場に立った」言動については、特に担任を中心に指導に注力してきた。「自覚」の上では概ねできるようになったが、「無自覚」な言動が原因の友人トラブルも起きている。18歳成年となる今年は、社会に通じる人間力、コミュニケーション力の更なる向上を目指したい。	○様々な生活指導や進路指導の場面を通して、「社会で必要とされるふるまい(言動)」について指導していきたい。	A
	自ら学ぶ姿勢で志を持ち、社会に貢献できる生徒を育成する。	①進路実現に必要なスキルに気づき、主体的に資格取得や学力向上に向けて学習できるように指導する。 ②課題研究、インターンシップ等を通して、身につけた知識技能が社会貢献の一端を担えることを実感できるよう指導を充実させる。	教員(34、35) 保護者(22)・生徒(11) アンケートにおいて「A」「B」と回答した割合	A 90%以上	B 80%以上	生徒 52.6% 保護者 69.3% 教職員 100.0%/94.5%	B	①2年生は希望者受験の資格が多く、受検者が少なかったことがアンケート結果に表れている。 ●資格検定の情報提供やインターンシップの指導など、教員側からは的確な対応がなされていると思うが、目的や意義が生徒、保護者に十分伝わっていない可能性もある。	①資格検定の情報提供を進路実現と結びつけたものとなるよう工夫が必要。進路実現の観点からも、他の希望者受験の検定についても積極的に案内し、資格取得率を高めたい。 ②教職員、生徒、保護者アンケートの質問内容を再考する。	B
三年部	最高学年として他の模範となる生活態度を実践し、自己管理能力を身につけた生徒の育成	授業、HR、学校行事等の場面で随時指導する。 ①状況に応じた言葉遣いやあいさつができるよう指導する。 ②より良い学習環境の中で意欲的に学べるように黒板消しや教室美化を徹底する。	教員(36、37)・保護者(9、10、15)・生徒(14、15、18、19、20) アンケートにおいて「A」「B」と回答した割合	A 80%以上	B 70%以上	生徒 97.8%/96.2%/98.1%/86.6%/96.7% 保護者 87.0%/89.5%/89.9% 教職員 100.0%/95.7%	A	●総合的には高い評価であった。また、保護者評価において、アンケートで「わからない」と回答した割合が例年より減ってきている。行動制限緩和による学校行事や授業の公開などで生徒の活動を知る機会が増えたことも大きい。	○継続的に取り組む。また、学習環境の充実のために個人の整理整頓指導も続けていく。	A
	進路実現に向け、情報の収集や分析を主体的に行い、進路決定ができる生徒の育成	①週に1度学年会を実施し、生徒の情報交換を充実させる。 ②困り感を抱えている生徒の支援について、健康相談部からの情報提供とアドバイスを受けなど連携していく。	教員(38、39)・生徒(25) アンケートにおいて「A」「B」と回答した割合	A 80%以上	B 70%以上	生徒 94.3% 教職員 90.8%/100.0%	A	●定期的に学年会を行い学年部と進路指導部との情報共有ができたことが高い評価につながったと考えられる。また、学校全体で進路指導している体制が生徒にも良い影響を与えている。	○進路情報や生徒の様子を進路指導部、学年会、学校全体で共有して、生徒の進路実現を支援していく。	A
事務部	学校の快適かつ安全な教育環境の整備に努める。	学校教育環境の整備において、緊急性・必要性を考慮して実施するとともに、年間を通じて適切な施設・設備の維持管理に努める。	保護者(14・15)、生徒(34・35) アンケートにおいて、「A」「B」と回答した割合	A 90%以上	B 80%以上	生徒 95.5%/83.4% 保護者 89.3%/89.9%	A	●校舎や機械設備等の老朽化に加え、ここ数年猛暑や大雨による被害が続いている。快適で安全な教育環境を整備するため早急に修繕等を行う必要があるが、予算上の制約もあり、すべての案件に対応することは難しい状況にある。	○緊急性や必要性を考慮し、優先順位をつけて計画的に施設設備の維持管理を行い、安全確保と環境改善に努めるとともに、公費以外の財源確保についても検討していく。	A
	出雲農林高校満足度の向上	教職員一丸となり魅力ある学校づくりを推進する。	保護者(25)・生徒(1) アンケートにおいて「学校生活に満足している」に対して「A」「B」と回答した割合	A 90%以上	B 80%以上	生徒 87.1% 保護者 92.0%	B	●コロナ禍による活動や行動の制限がなくなり、体育祭や農業祭が従来の形となった。保護者には、教育活動にふれる機会が多くなり、よかった。しかし、生徒は校則や農場当番、荒天に伴う連絡など、十分でないと感じることが多かった。	○より安心、安全にそして意欲的に学校生活を送れるように生徒の声にも耳を傾け、改善できるところは改善していきながら充実した高校生活を送ることができるように体制を構築していきたい。	B